

## 県北で初めての松くい虫被害の発生について

### 1 はじめに

昨年9月、九戸村で県北地域では初めての松くい虫被害が発見されました。被害の発見に至った経緯と地域でのその後の対応について報告します。

### 2 枯損木発見に至った経緯

#### (1) 散見される枯損したアカマツ

今年度になり、県内では住田町、滝沢村、雫石町と松くい虫被害地域の拡大が見られ、二戸地域でも数年前からアカマツの枯損が散見されるようになってきました。

これまでの常識からは、管内での松くい虫被害の可能性は極めて低いと思われましたが、市町村や森林組合と打合せを行い、枯損木の一斉調査を実施することとしました。

#### (2) 一斉調査の実施

7月22日から26日にかけて、市町村、森林組合、県それぞれの担当者と、松くい虫防除推進員が公用車に同乗し、幹線道路からの目視調査を行ったところ、管内25か所で枯損木を確認しました。その後、9月3日までに現地で枯損原因を調査するとともに、枯損原因が特定できない47本については材片調査を行うこととしました。

#### (3) 被害発見は偶然の賜物

この調査で材片調査を行っていたところに作業を見ていた林家の方から「自分の山にも枯れているアカマツがある」という情報を得て、急遽、材片を採取することにしました。マツノザイセンチュウが検出されたのはこの1本からだったのです。

### 3 地域の反応とその後の対応

9月13日の被害公表が地域に与えた衝撃は大きく、久慈や八戸からも多数の問い合わせがありました。

そこで、県北広域局管内の関係者を対象に、林業技術センターの小澤主査専門研究員を講師に被害発生メカニズムや具体的な対応方法等について研修会を開催しました。

また、各市町村の広報誌でアカマツの枯損情報の提供を呼びかけ、寄せられた情報をもとに徹底して材片調査を実施しました。



被害地での伐倒処理実演研修の様子

### 4 おわりに

今回の被害発生は感染ルートを特定することはできませんでしたが、関係者や住民に「県北でも松くい虫被害は発生する」という危機意識を植え付けることとなり、その後も枯損木情報が多数寄せられています。

当室では今後もアカマツの異変にきちんと対応し、被害の早期発見・早期駆除に取り組み、県北地域の優良なアカマツ林の健全性が保たれるよう取り組んでいきます。